

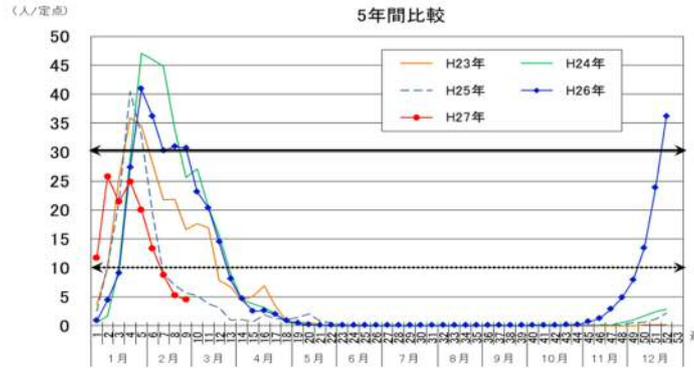
疾患別発生状況解析(平成26年12月～平成27年2月)

<インフルエンザ定点対象疾患>

インフルエンザ(警報基準値:定点当たり 30 人、注意報基準値:定点当たり 10 人)

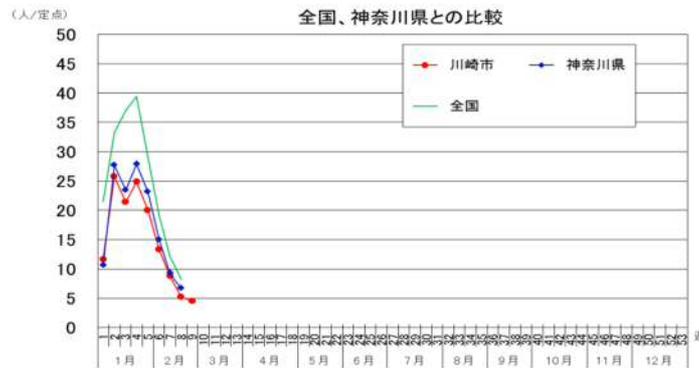
【川崎市】

今期は12月 4,379 件、1月 5,347 件、2月 1,719 件、計 11,445 件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月 487%、1月 151%、2月 35%となり、新型インフルエンザが流行した平成21年を除くと、平成11年のデータ収集開始以降、最も早い時期に流行発生注意報(第50週)及び流行発生警報(第52週)が発令されました。なお、2月以降は減少傾向が続いています。

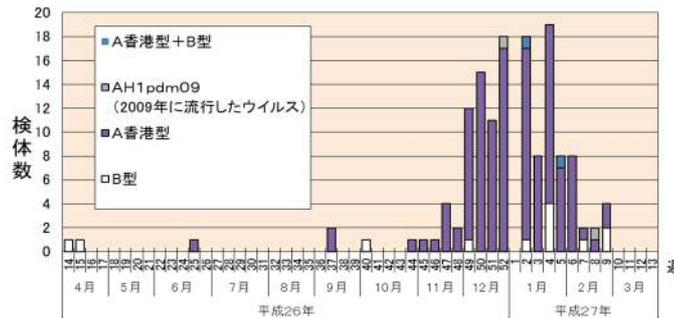


警報基準値

注意報基準値



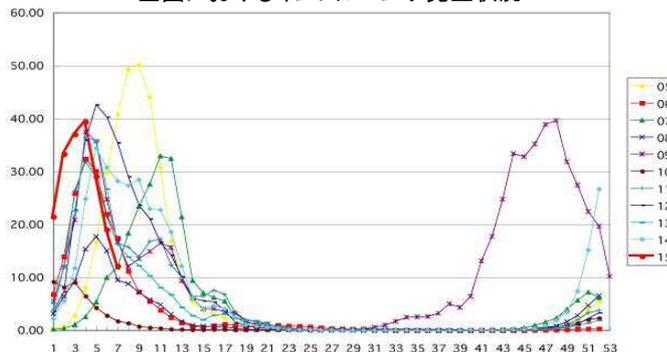
また、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。今シーズンは、AH3亜型が123件、AH1pdm09型が2件、B型が10件検出されており、AH3亜型とB型の重複感染を疑う事例が2件ありました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より早い時期から患者報告数が増加しました。

全国におけるインフルエンザ発生状況



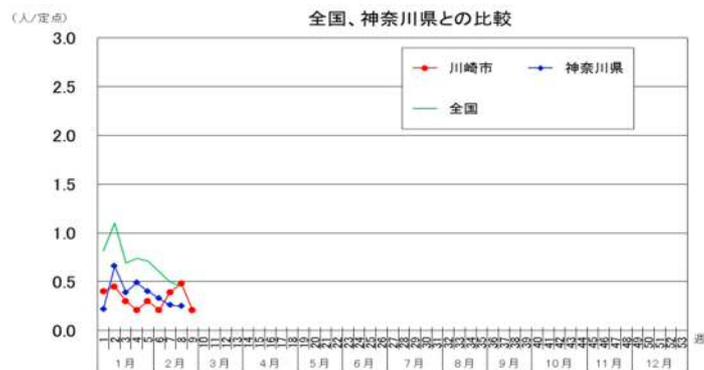
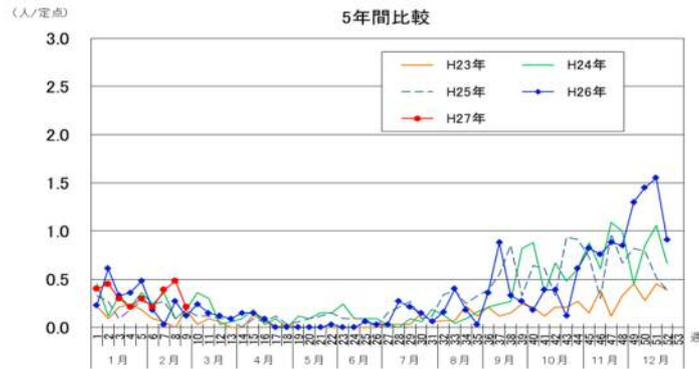
<小児科定点対象疾患>

RSウイルス感染症

【川崎市】

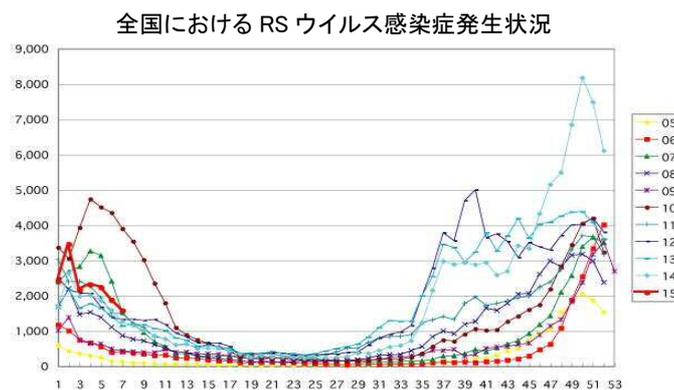
今期は12月172件、1月50件、2月43件、計265件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月224%、1月132%、2月154%と、例年より高いレベルで推移しました。なお、第49週(1.30人)、第50週(1.45人)、第51週(1.55人)には、平成15年のデータ収集開始以降、過去最多の報告数を更新しました。

また、年齢別では1歳以下が76%を占めていました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

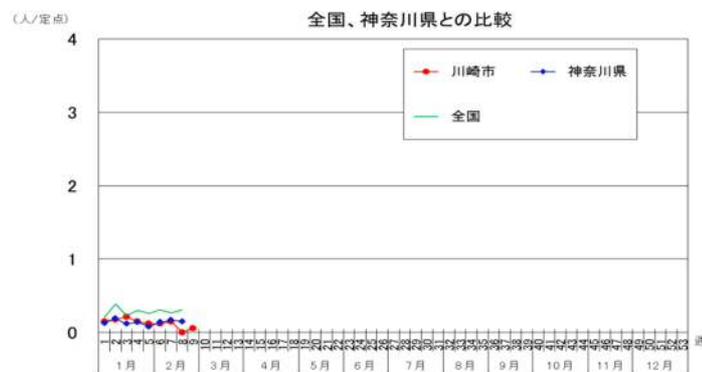
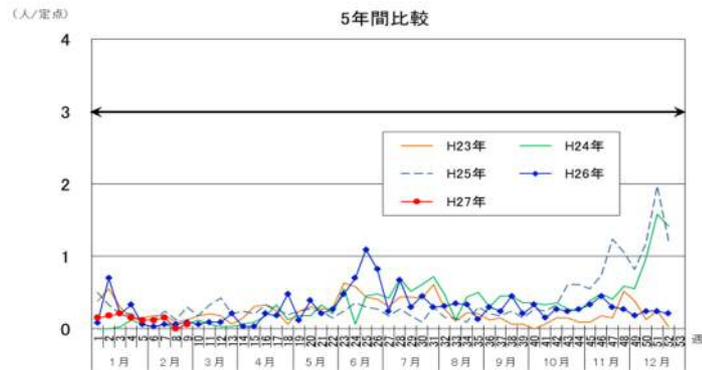


咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は12月29件、1月25件、2月11件、計65件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月27%、1月87%、2月83%と、例年より低いレベルで推移しました。

近年では、従来流行のあった夏期に患者数が増加せず、冬期に増加する傾向が続いていましたが、今期は目立った流行等は認められず、流行発生警報基準値(3)を超えた週はありませんでした。

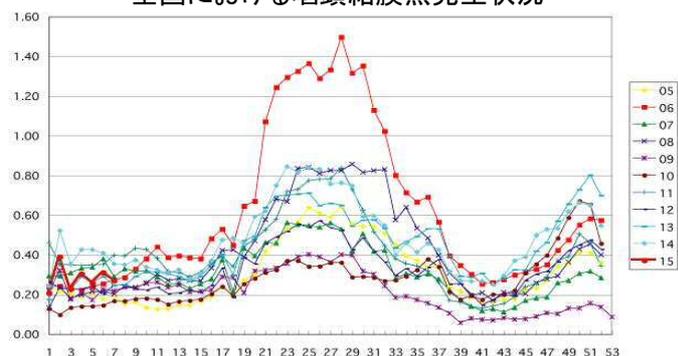


なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

全国における咽頭結膜熱発生状況

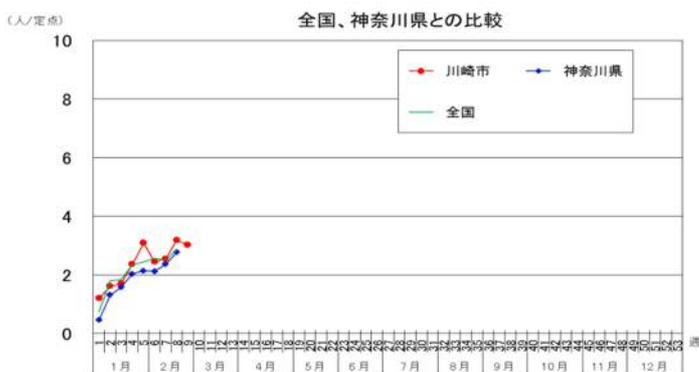
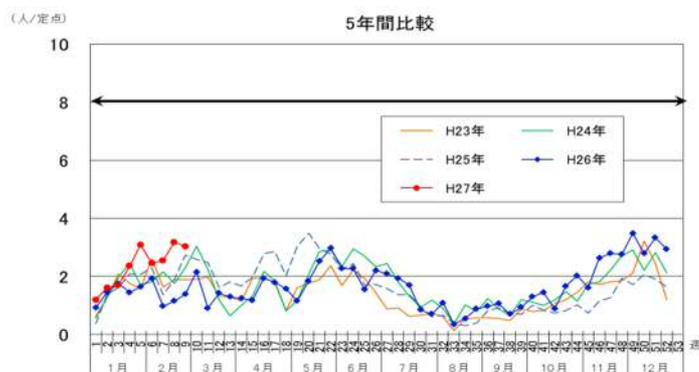


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は12月414件、1月313件、2月370件、計1,097件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月131%、1月158%、2月163%と、平成22年以降において最も高いレベルで推移しました。

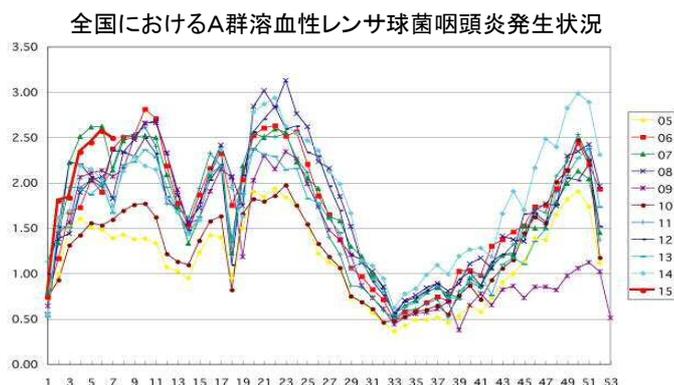
今期、流行発生警報基準値(8)を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

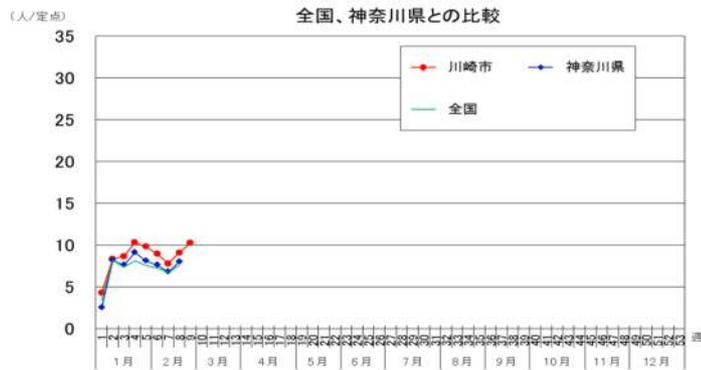
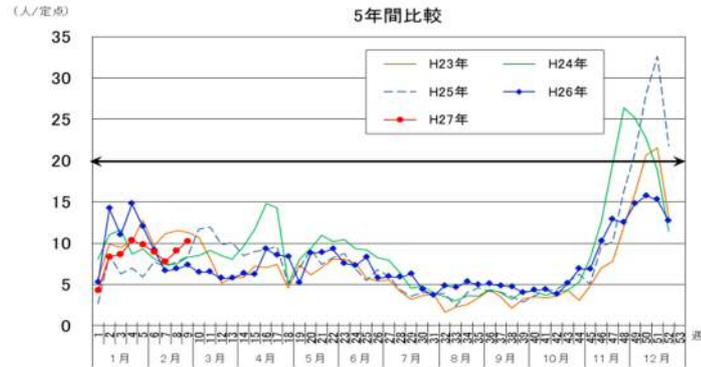


感染性胃腸炎(警報基準値:定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は12月1,927件、1月1,312件、2月1,190件、計4,429件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月71%、1月90%、2月89%と、例年より低いレベルで推移し、流行発生警報基準値(20)を超えませんでした。平成11年のデータ収集開始以降、冬期に流行発生警報基準値を超えなかったのは今シーズンが初めてのことでした。

今期、流行発生警報基準値(20)を超えた週は、川崎区で第49週(21.60人)、第50週(23.60人)、第51週(27.00人)、第52週(24.60人)、中原区で第49週(20.40人)、高津区で第50週(23.00人)でした。



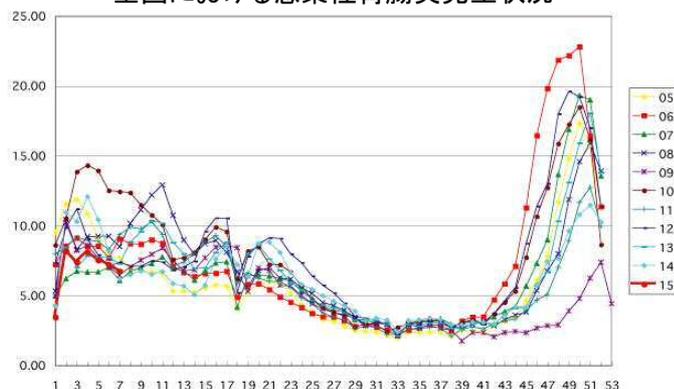
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果(ウイルス)	血清型	検査結果(細菌)
H27.1.15	宮前	女	6	陰性		陰性
H27.1.16	宮前	女	44	ノロウイルス	G2	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

全国における感染性胃腸炎発生状況

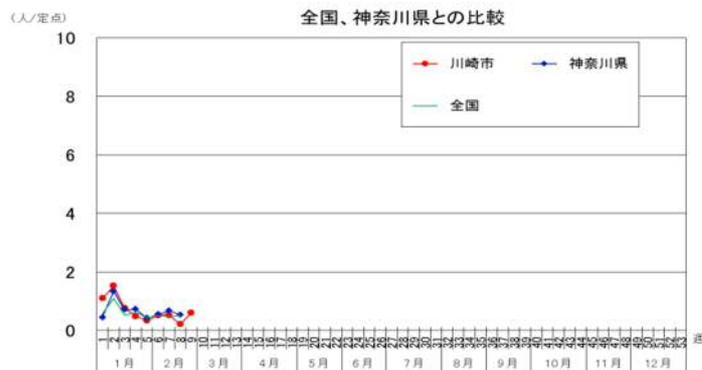
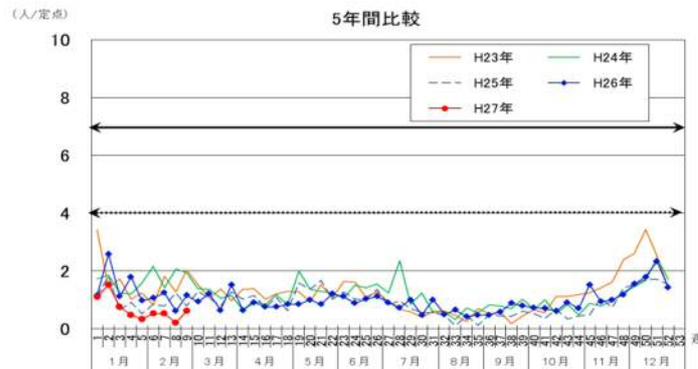


水痘(警報基準値:定点当たり7人、注意報基準値:定点当たり4人)

【川崎市】

今期は12月234件、1月124件、2月61件、計419件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月77%、1月64%、2月33%と、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

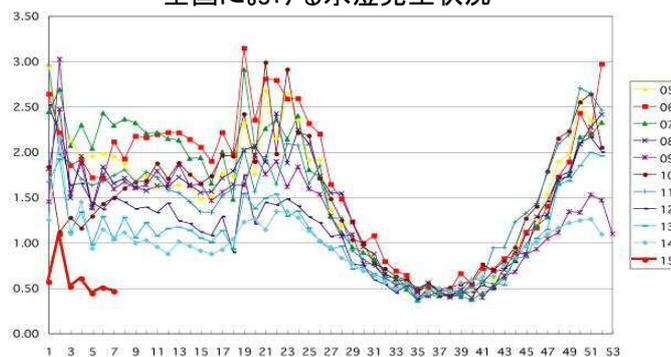
今期、流行発生注意報基準値(4)を超えた週は宮前区で第50週(4.20人)、多摩区で第51週(5.80人)、第2週(4.40人)でした。



【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

全国における水痘発生状況

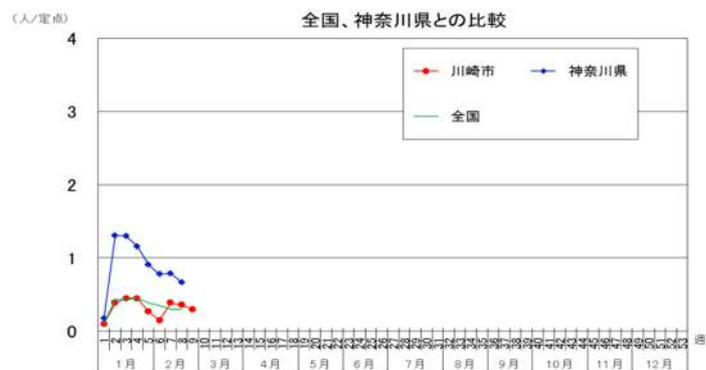
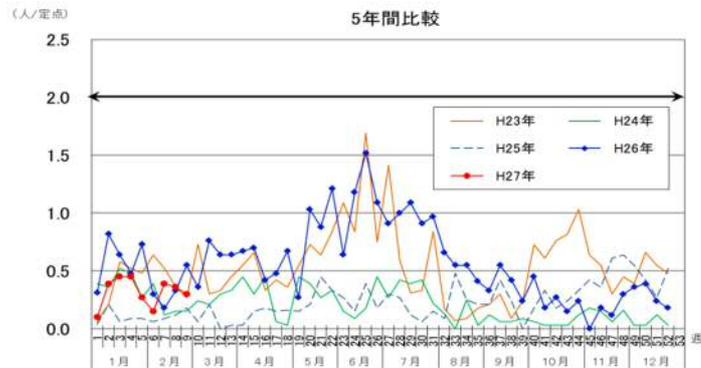


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

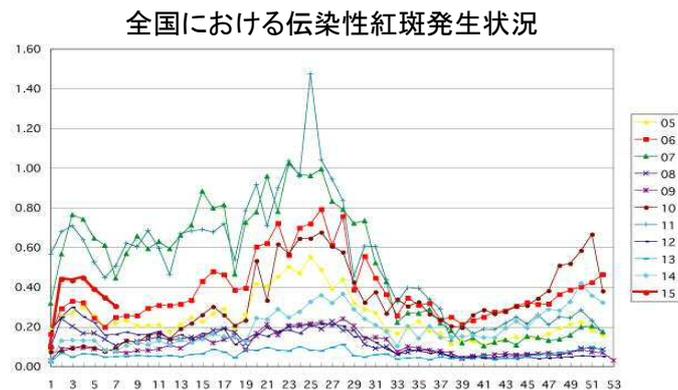
今期は12月39件、1月54件、2月40件、計133件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月81%、1月116%、2月108%と、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値(2)を超えた週はありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

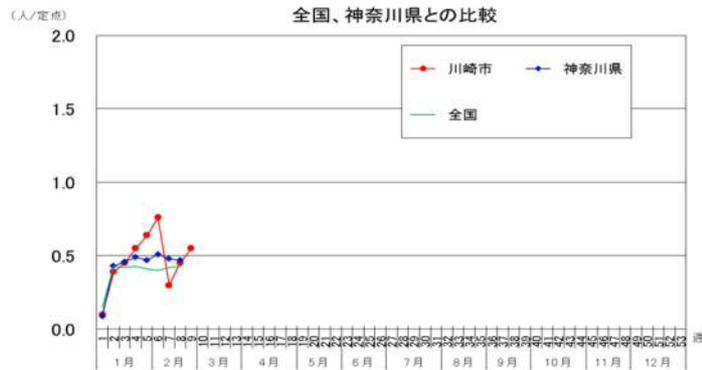


突発性発しん

【川崎市】

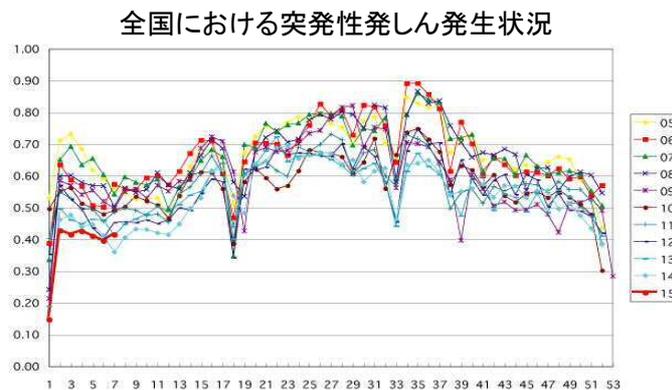
今期は12月65件、1月69件、2月68件、計202件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月63%、1月76%、2月76%と、例年より低いレベルで推移しました。

また、例年と同様、年齢別では1歳以下が88%を占めていました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

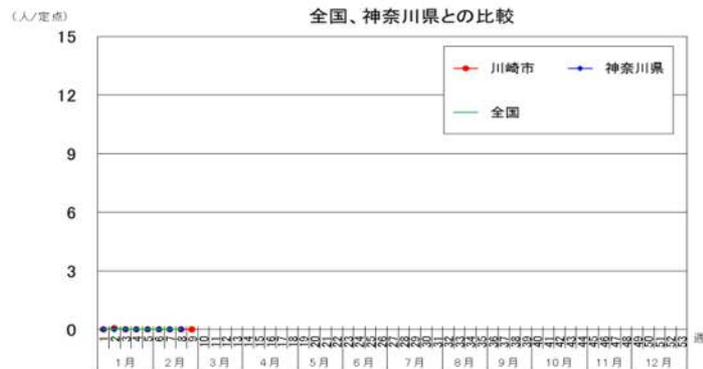
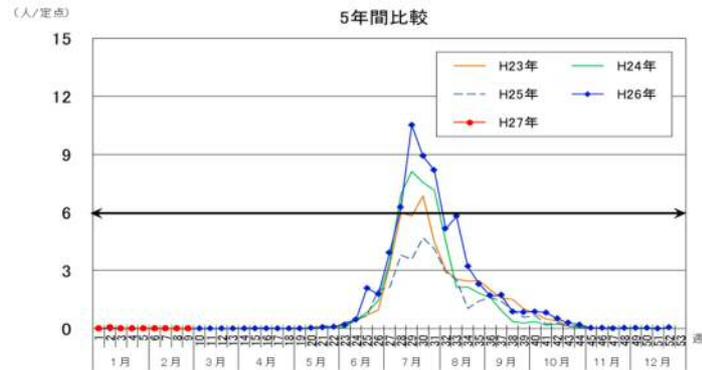


ヘルパンギーナ(警報基準値:定点当たり6人)

【川崎市】

今期は12月4件、1月2件、2月0件、計6件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月200%、1月333%、2月0%と、12月と1月に例年より高いレベルで推移しました。

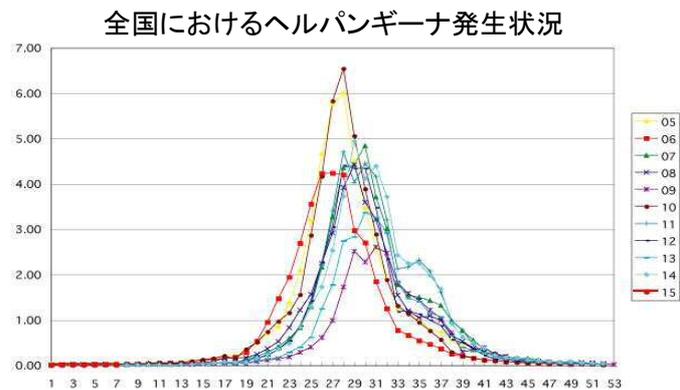
今期、流行発生警報基準値(2)を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年とほぼ同じレベルで推移しました。

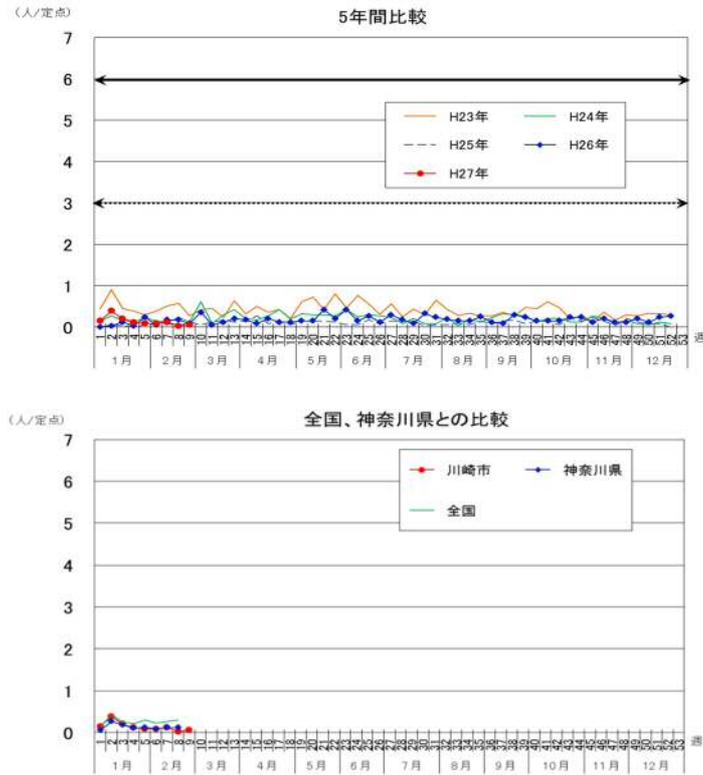


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は12月28件、1月30件、2月10件、計68件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月48%、1月109%、2月34%と、1月はほぼ例年並みのレベルで推移しましたが、12月及び2月は例年より低いレベルで推移しました。

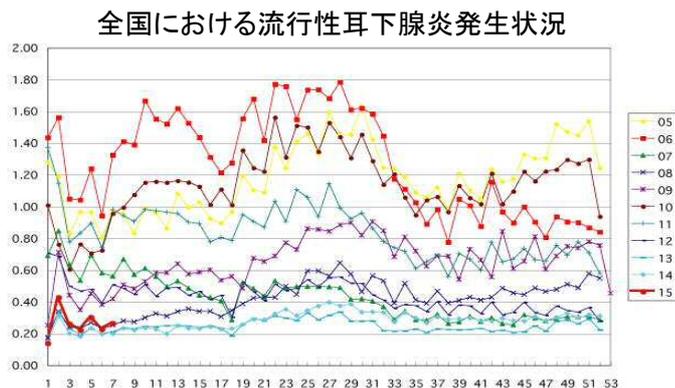
今期、流行発生注意報基準値(3)を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



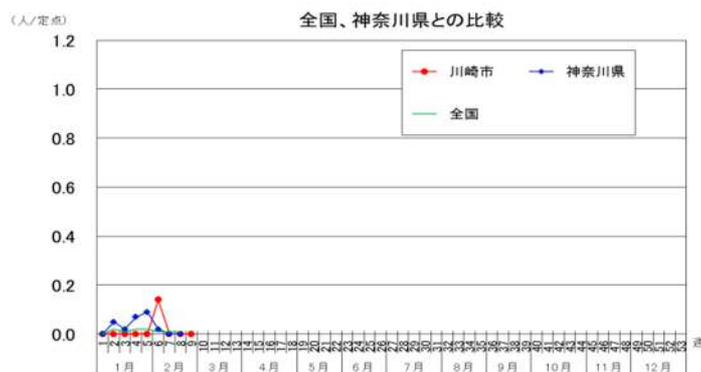
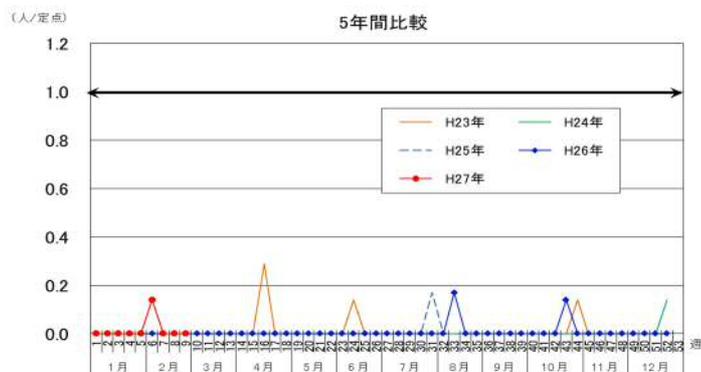
<眼科定点対象疾患>

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は12月0件、1月0件、2月1件、計1件の報告がありました。過去5年平均の報告数は0.2件であり、例年より高いレベルで推移しました。

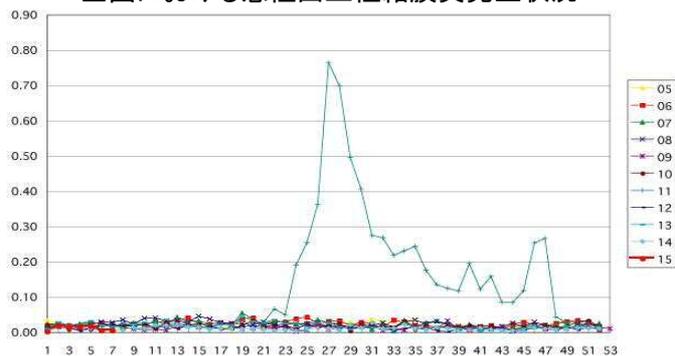
今期、流行発生警報基準値(1)を超えた週はありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。

全国における急性出血性結膜炎発生状況

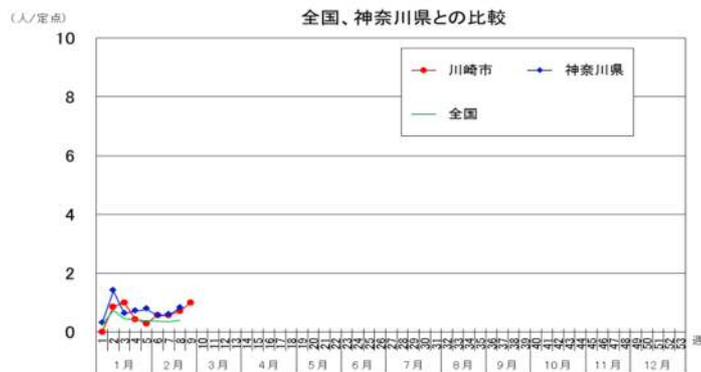
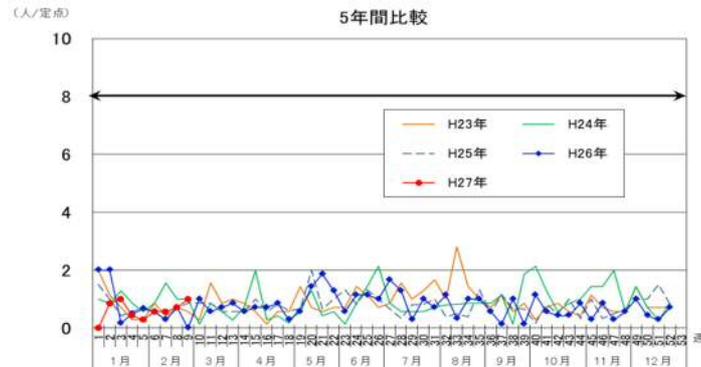


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は12月17件、1月18件、2月20件、計55件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月74%、1月76%、2月108%と、2月はほぼ例年並みのレベルで推移しましたが、12月及び1月は例年より低いレベルで推移しました。

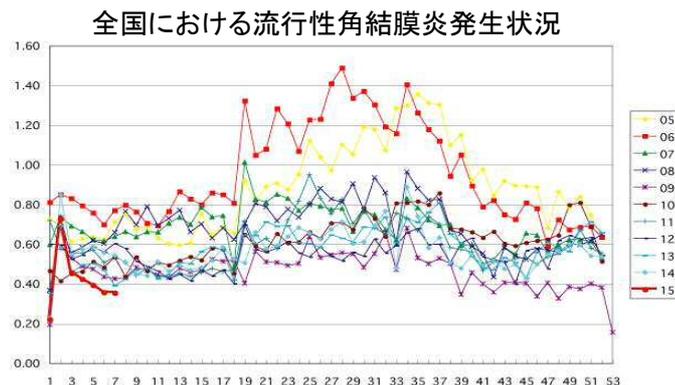
今期、流行発生警報基準値(8)を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

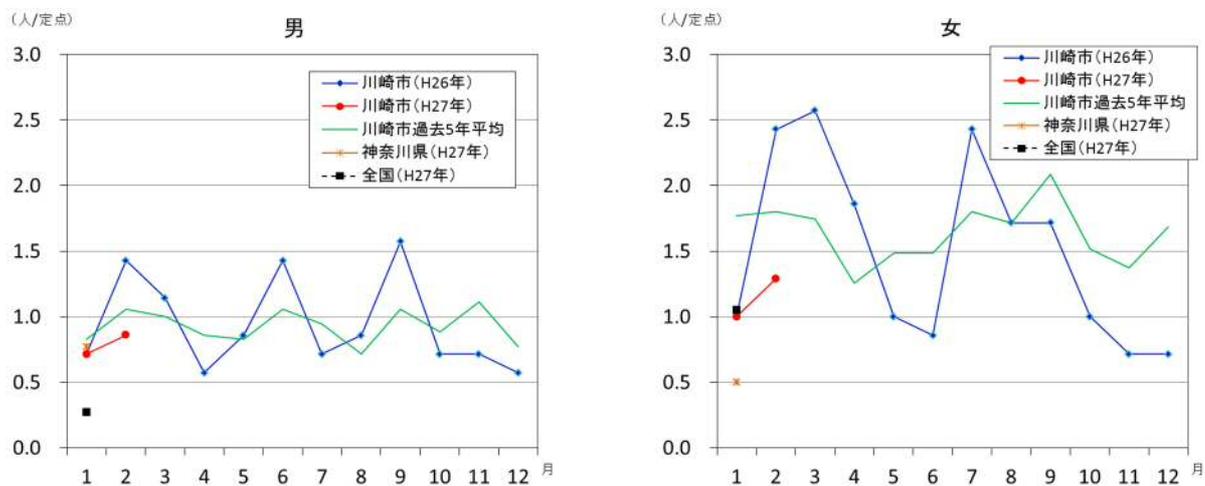


<性感染症定点対象疾患>

性器クラミジア感染症

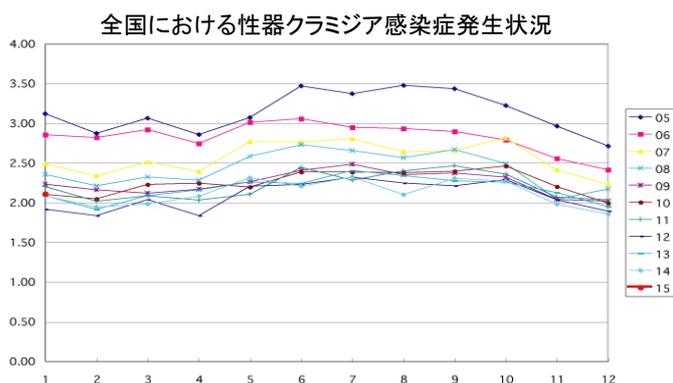
【川崎市】

今期は12月9件、1月12件、2月15件、計36件の報告がありました。過去5年平均の報告数と比較すると12月50%、1月66%、2月75%と、例年より低いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

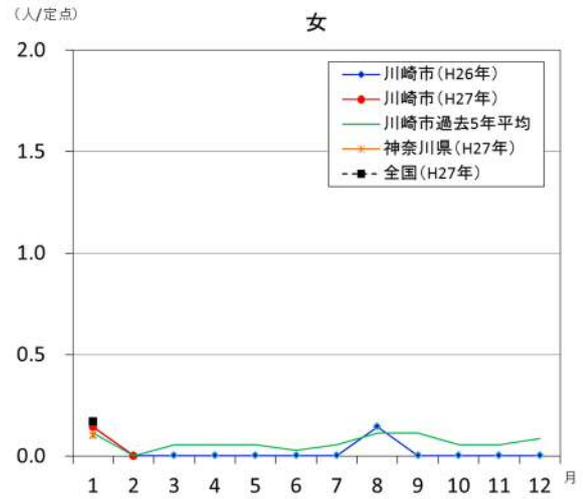
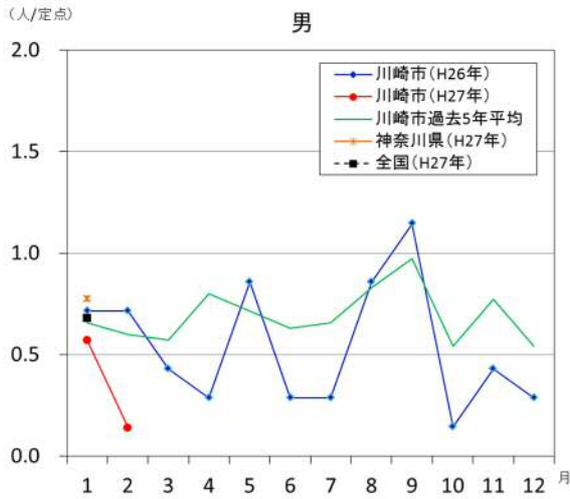
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



淋菌感染症

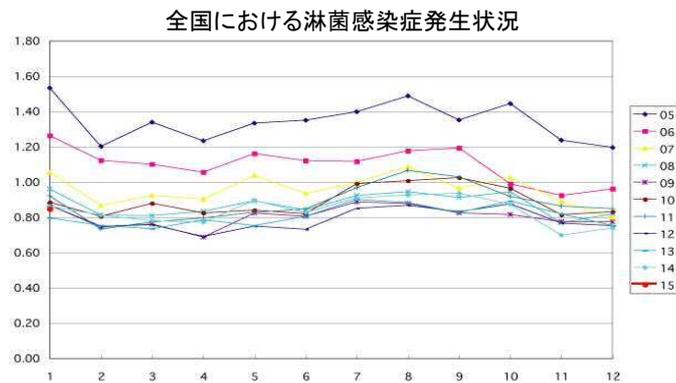
【川崎市】

今期は12月2件、1月5件、2月1件、計8件の報告がありました。過去5年平均の報告数は14.8件であり、例年より低いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

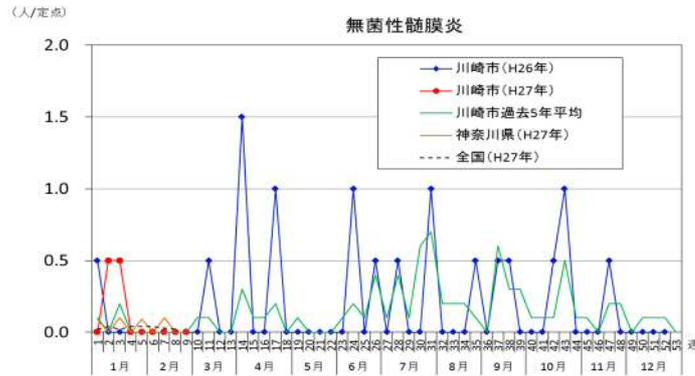
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は12月0件、1月2件、2月0件、計2件の報告がありました。過去5年平均の報告数は1.6件であり、ほぼ例年並みのレベルで推移しました。

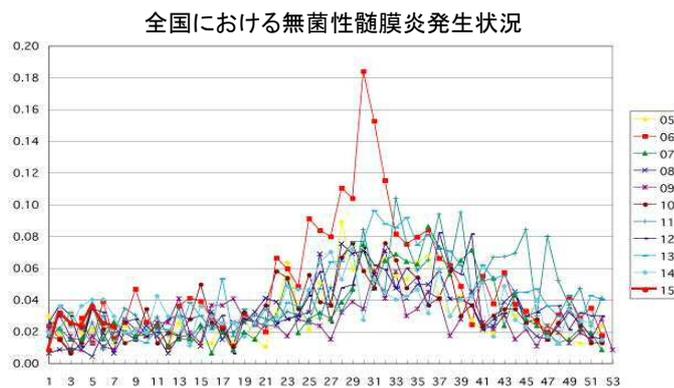


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果	検査結果(亜型)	検出部位
H27.1.16	川崎	男	9	陰性		髄液

【全国及びその他】

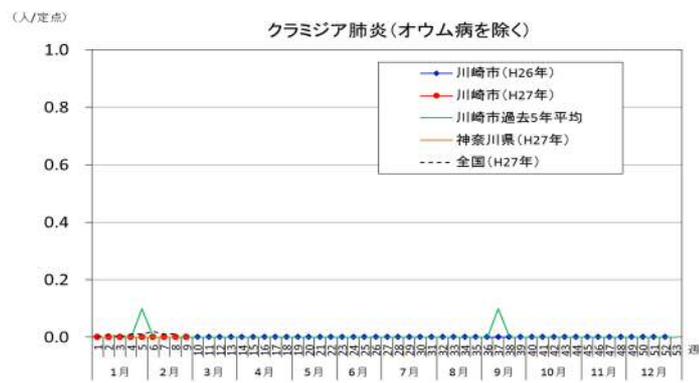
全国的には例年より高いレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

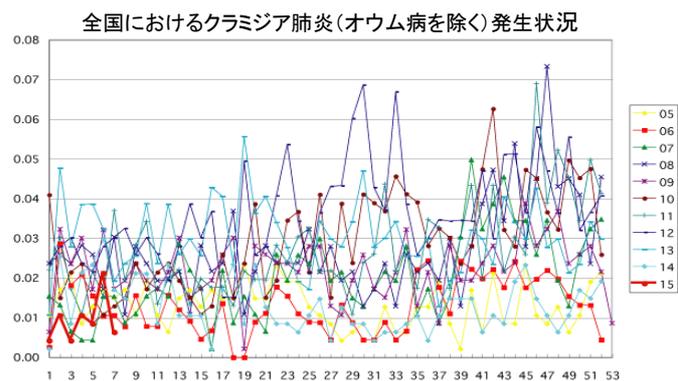
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

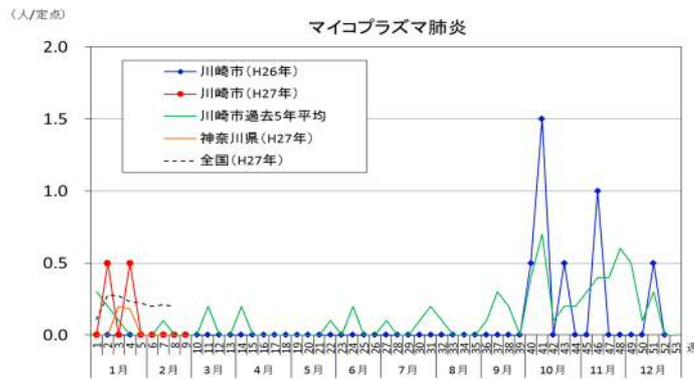
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

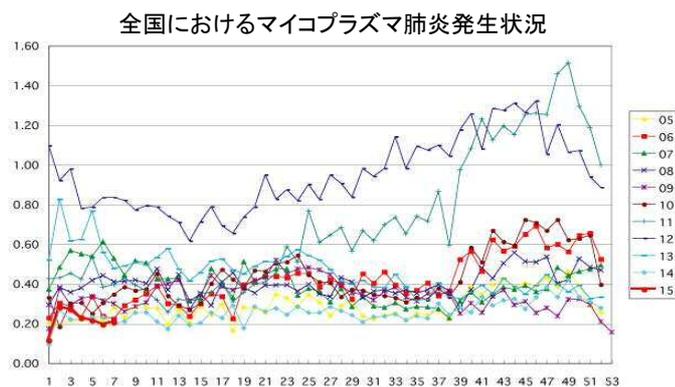
【川崎市】

今期は12月1件、1月2件、2月0件、計3件の報告がありました。過去5年平均の報告数は4.0件であり、例年より低いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

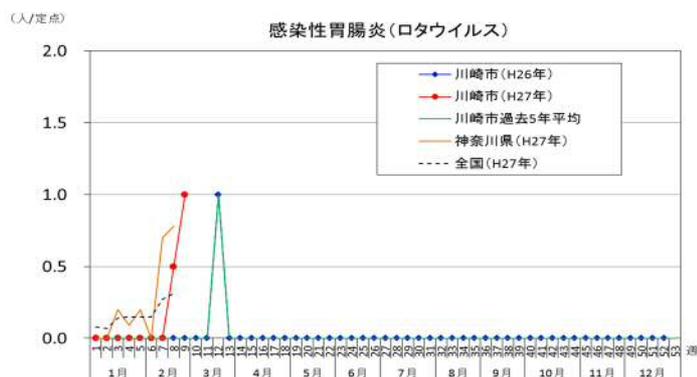
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

【川崎市】

今期は12月0件、1月0件、2月3件、計3件(全て1歳以下)の報告がありました。

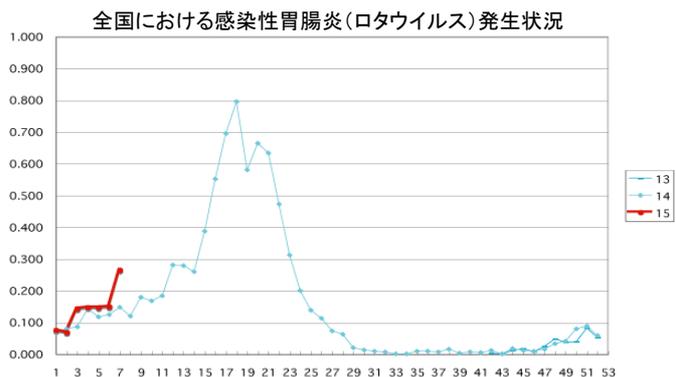


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

検体送付日	区名	患者性別	患者年齢	検査結果	血清型
H27.2.20	宮前	男	1	ロタウイルス	G9P[8]
H27.2.25	川崎	女	1	ロタウイルス	G1P[8]

【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

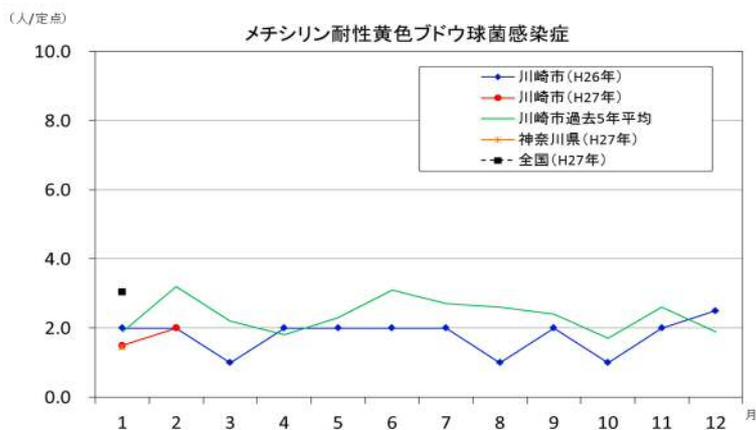


<基幹定点対象疾患（月報）>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

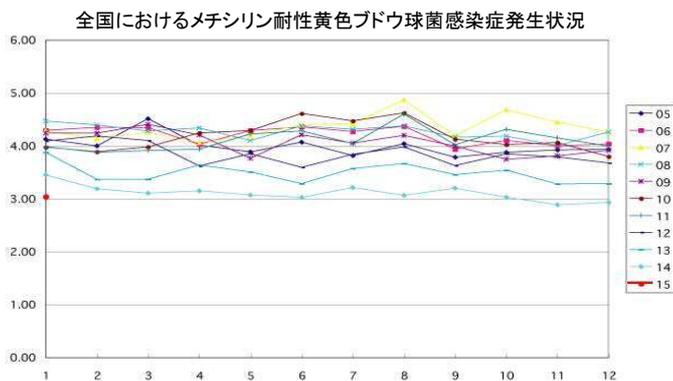
【川崎市】

今期は12月5件、1月3件、2月4件、計12件の報告がありました。過去5年平均の報告数は13.6件でした。



【全国及びその他】

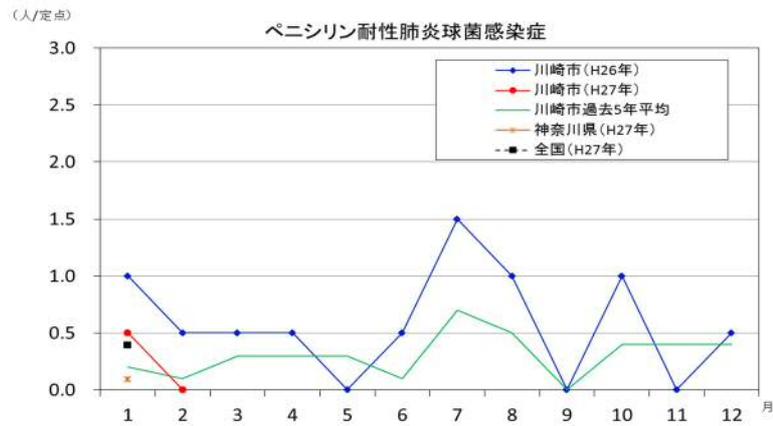
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

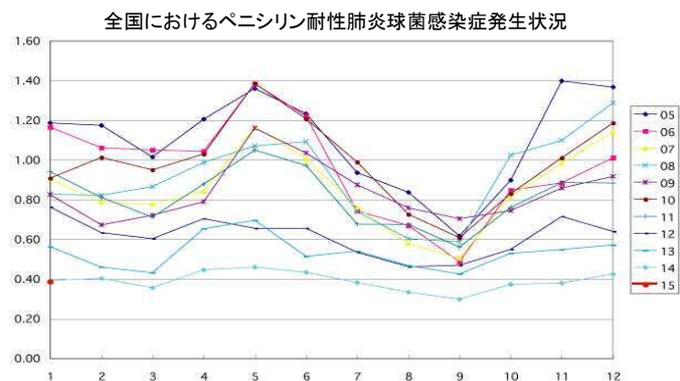
【川崎市】

今期は12月1件、1月1件、2月0件、計2件の報告がありました。過去5年平均の報告数は1.2件でした。



【全国及びその他】

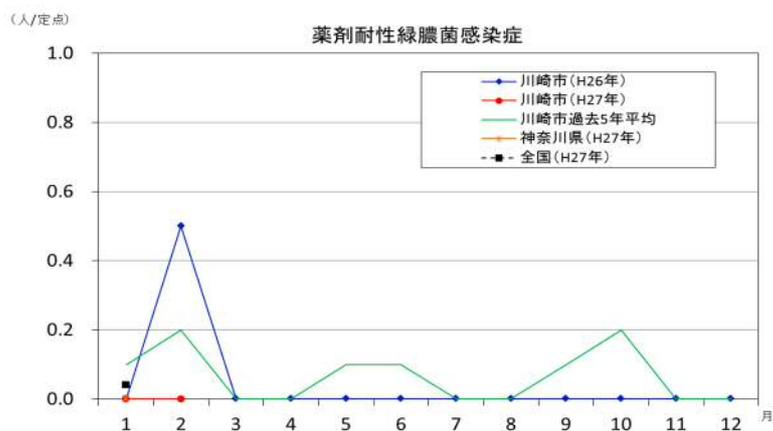
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



薬剤耐性緑膿菌感染症

【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

